

令和4年度調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会 意見具申

① 「地域生活を続けるための社会資源の体制整備が必要です」

1 背景

調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会は、平成30年度から精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進するための協議の場としての機能を追加し、市内の精神保健福祉に関わる45団体が集い、グループワークを通して情報交換や地域課題についての話し合いを行ってきた。精神障害者が安心して地域生活を続けるためには、保健、医療、福祉の資源が充実し十分に供給されることが必要であるが、既存の障害福祉サービスや医療サービスでは不十分であることが確認された。地域移行が促進されていく中で、精神障害者、発達障害者が地域生活を続けるための柔軟な体制整備が望まれる。

2 課題

- (1) 精神障害者の家族のフォローやメンタルサポートをできる支援機関が少ない
- (2) 若者支援は既存のサービスに当てはまりにくく、居場所や相談する場が少ない
- (3) 就労を希望するが、精神障害者保健福祉手帳がなく障害者雇用の対象にならない等、既存の枠組みの中では働くに至れない方がいる
- (4) 障害分野、小児分野で対応できるヘルパー不足が深刻である上に、派遣が難しい地域があり、障害者の生活を支えるヘルパー探しが困難となっている
- (5) 長期入院から退院しても通院同行などの支援が足りず、医療中断や、トラブルを抱え再入院に至ってしまう

3 課題に対する具体的方向性

- (1) 家族支援の充実
- (2) 若者の多様な居場所の充実
- (3) 精神障害者保健福祉手帳がない人でも障害者雇用のように働ける場や作業所でも一般就労でもない人が働ける中間的就労の場等、新しい働き方の創設
- (4) 障害分野、小児分野にも対応できるヘルパーの人材育成、障害分野で従事しているヘルパーへのフォローアップ研修の実施。ヘルパー事業所を増やす取組
- (5) 既存のサービスでは対応しきれない通院のサポート体制整備

② 「切れ目のない支援のために分野を越えた連携が必要です」

1 背景

ネットワーク連絡会は、医療機関、保健所、相談機関、通所施設、居宅介護事業所、家族会など多様な形態かつ、子どもから高齢者まで様々な年齢層を対象とした支援機関によって構成されている。グループワークでは、子どもの支援で関わったら親も支援が必要な複合的な課題を抱えていることがわかった例や、学齢期を終えた時期や障害から高齢への移行期などライフステージにより必要な支援が変わっていく例等、支援が途切れたり、とりこぼしてしまいがちな状況が報告された。

令和4年度は、居住支援協議会を通じて不動産事業者との懇談会を実施し、精神障害者、発達障害者、また家主をはじめとした地域住民が互いに安心して地域生活を送ることができるよう情報交換を行った。顔の見える関係づくりと互いの役割や思いを知ることで新たな連携の一步となり、継続した相互理解の取組が求められる。

2 課題

- (1) 支援機関同士、互いの役割や連携の仕方が十分に理解できておらず、支援を活かしきれていない
- (2) ライフステージごとに支援者側で情報を引きつぐことが必要だが難しい状況
- (3) 地域住民の障害理解や専門職の他分野への理解が不足している
- (4) 未受診や医療中断、相談先がない人など、支援機関につながっていない人を支援につなぐ仕組みの強化が必要

3 具体的方向性

- (1) 相互理解を深めるための各分野の連絡会を活用した情報共有や事例検討等の機会づくり
- (2) 横のつながりを活かした早期介入やとりこぼさない支援体制づくりとライフステージに合わせた連続性のある支援の提供
- (3) 障害理解に関する普及啓発、専門職の相互理解の促進
 - ① 必要な情報を必要な人に届けるための社会資源の見える化
 - ② 障害理解の促進のための地域住民への情報発信や普及啓発、地域交流の実施
- (4) 診断がついていない人でも受けられる支援や相談先の拡充